

【小論文】

【出題の趣旨】

京都市内のある国立大学のキャンパス周辺の立て看板（通称「タテカン」）をめぐる問題について論じた2018年5月18日付「京都新聞社」の社説を題材として、景観の保護と表現の自由の尊重という価値観の異なる2つの立場の対立と調整について考えさせる問題である。

問は3つの設問からなり、説問1では、社説の中に記述されている三者の立場、すなわち、①京都市当局、②当該大学当局、③学生の立場を対比的に整理することを求めている。また設問2では、社説の執筆者が提起している新たな視点（①②③の立場とは異なる新たな視点）を挙げているところ、それを読み取って要約することを求めている。最後に設問3では、設問1及び2における解答を踏まえて自分の意見を述べることを求めている。

【採点基準】

採点に当たっては、設問1および2が題材の社説を読み取る能力、読み取ったことを整理し、文章として表現する能力等を評価の対象としているのに対して、設問3では、受験生に「問題解決」の方策に係る自分の意見（主観）を自由に述べさせることを前提として、論述の明確性、論理性、具体性、客観性、バランス感覚、公平性を評価の対象としている。